

沖縄にとっての特色ある産業は、暖かい気候を生かしたサトウキビの生産ときれいな海を生かした観光産業である。今年の夏、私は家族と沖縄旅行に出かけた。離島まで足を運び、見渡す限りのサトウキビ畑の中をゆっくりと自転車で回り、きれいな海では優雅に泳ぐ野生のウミガメに出会うことができた。

政府もこの強みを生かした沖縄県の発展のための政策に力を入れている。その一つとして国内では珍しい租税特別措置等がとられている。いわゆる免税店のことである。私は那覇空港でこの存在を知った。調べてみると、これは沖縄型特定免税店制度と呼ばれるもので、沖縄から出発する旅行者が自己使用の目的で購入するものについて、空港内や決まった店舗で商品を購入する時に、税金の一部が免除されるという制度であることがわかった。

税収は医療や介護、教育などの私たちの暮らしになくてはならない国の財源である。免税店は、税金を課さないため税収の意味では減少することになる。しかし、この制度のすばらしさはその先にあると感じた。それは次のような理由である。

同じ商品なら関税がかけている商品とそうでない商品、安い方を選ぶのは人の心理として自然のことである。しかし、価格が安いとその分、消費量が上がり、店舗の売り上げが向上し、さらに、増加した来客対応のために新たな人材を雇うことで、雇用が生まれることになる。すると、店舗にかかる法人税や個人にかかる所得税、住民税などの税収につながるものが考えられ、その結果、さらに地域が発展し、正の循環が生まれるからである。

世界に目を向けてみるとユニークな税制が設けられている。一つ目はイギリス。渋滞税と呼ばれるものである。首都ロンドンは特に日常的な渋滞がひどく、それを改善するために導入され、その結果、交通量が十五パーセント減少するなど、一定の効果が表れていると考えられている。二つ目はハンガリーのポテトチップス税。名称はポテトチップス税であるが、糖分や塩分などの割合が高い食品に課税され、国民の健康維持を目的として導入されたそうだ。

沖縄型特定免税店制度をはじめ、国家の税制について感じたことは、課税や免税の運用には工夫がなされていることやその根拠に時代や社会的な課題が反映されているということである。車や住宅など環境問題を考慮した税制もその一つである。そして、外国の例も含め、共通していることは、国民の暮らしの質の向上を目指したものであることに他ならない。

税制は社会の課題を反映するバロメーターである。私は、国民の一人として、国の税制に関心を持ち、同時に社会に対する広い視野を持った人になりたいと思う。